

第3回長崎県がん診療連携拠点病院研修会 (アンケート調査結果)

開催日 平成23年1月22日(土曜日)

時間 15:00~17:20

場所 長崎県医師会館

出席者 103名 回答者 33名

出席者の内訳

職名	施設名	大学病院	長崎市民 病院	長崎医療 センター	島原病院	佐世保市 立病院	原爆病院	健康保険諫 早総合病院	佐世保中 央病院	他施設
	総数									
医師	50名	7名	2名	2名	5名	2名	0名	6名	3名	23名
薬剤師	16名	2名	0名	0名	1名	0名	0名	1名	0名	12名
看護師	23名	8名	1名	1名	2名	0名	0名	2名	0名	9名
放射線技師	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
MSW	5名	1名	1名	2名	1名	0名	0名	0名	0名	0名
栄養士	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
事務職員	4名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	3名	0名	0名
その他	5名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名

～今回の講演の内容について～

基調講演「**「がんの地域連携クリティカルパスの導入と今後の問題点**」

- ・ Total に参加して、パスの理解、運用に向けての疑問がかなり解消されました。(医師)
- ・ がん患者が継続的に医療が受けれるように拠点病院だけでなく、同じ様な医療が受けれるようにのぞんでいます。ありがとうございました。(看護師)
- ・ 大枠がわかりました。(看護師)
- ・ 連携室の重要性の強調されたことで、当院における重要性の再認識と今後の方向性について知識を得ることができた。(医師)
- ・ 地域の診療所医師に対してパスの必要性が十分伝わってない、と思われます。本日の出席者も大半は病院関係者ではなかったでしょうか？パスを病一病間で終わらせない為にも今後受皿となる診療所の開拓が必要ですね。(医師)
- ・ 各がん拠点病院で連携パスを作成するより、県全体で共通の連携パスを運用した方がメリットが大きい事がよくわかりました。また連携パスを作成した後、その導入と稼働に対するアプローチ方法(説明会、講演会、連携室の充実、データベース化 etc) にも、多大な労力がかかる事もわかりました。(製薬会社)
- ・ 福岡県内で実際に行った連携パスの定例を1例2例、紹介して頂けると実感が湧いてくるのですが、福岡県のパスの立ち上げの苦労された点などお話しされ、非常によくわかりました。(製薬会社)
- ・ 当院は、脳卒中連携パスと大腿骨頸部骨折パスを実施していて、がんに関する連携パスは今後運用して

いく予定です。組織、体制づくりをまずはじめとして、パスの導入を作成していきたいと思います。(事務職員)

- ・パス作成の目的・必要性を具体的に知ることができて良かった。(薬剤師)
- ・福岡県でのパスの進捗状況が具体的な経過として聞いて興味深かった。(医師)
- ・全く初めてで、これから勉強しなければならない段階です。(事務職員)
- ・非常に分かりやすかったです。(看護師)
- ・他県の導入時の状況がうかがえて良かった。今年度のパス加算算定時の協力病院とのやり取りに苦心した事もあり、今後、県でまとまっていければ良いと思う。(がん登録)
- ・有用でした。(医師)
- ・なぜ医療連携が必要か、わかりやすい内容でした。今から取り組んでいかなければいけないことですが、実際、難しい問題点がでてくると思われます。(事務職員)
- ・大変参考になりました。(薬剤師)
- ・福岡県における連携パス作成の状況をわかりやすく、スライド説明して頂きました。パスが多数の施設で異なるので、統一パスができれば癌治療後の follow がしやすくなるものと思われました。但し、Dr.のみでは、この連携パスは診療時間内にみていくことは困難であり、補助職員の参加が不可欠であろうと思われまます。(医師)
- ・理解ができました。(医師)
- ・初めての勉強会です。イメージとしては、よくわかりました。(薬剤師)
- ・勉強になりました。今後、新たなパス作成の時は、中央で音頭をとる組織が必要と思いました。(医師)
- ・連携クリティカルパスの有用性が理解できた。連携する病院の選択、協力できるレベルかどうか判断するのがむずかしいだろうと思った。(医師)
- ・勉強になることが多く(医療者、患者さんへのメリットなど、大変有意義なシステムと理解できました)、助かりました。ただ、運営していくには、担当のマンパワーと多くの参加者が一緒にやっという協調性をもってあたらないと実現、そして維持は極めて困難という考えをあらためて持ちました。(医師)
- ・時々、患者様より相談を受ける事があります。癌の手術を大学病院で受け5年経過した所で、もう通院しなくても良いといわれたが、心配だと。地元の病院で診てもらった際、遺伝子レベルで再発すると言われた。どこの病院で行ったらいいかと。いわゆる、癌難民ではないかと思えます。クリティカルパスができ私のカルテを持っている事で、不安なく何処の病院でも通院できるのではないかと思いました。連携パスの重要性を知ることができました。(看護師)

講演①～⑥について

- ・院内での説明はどうされるのでしょうか？疑問はNs.にくることも多いので、師長とかでの説明が必要だろうと思いますが。素晴らしい取り組みだと思います。他のがんにも運用が広がるといいですね。(看護師)
- ・パスは非常に今後、発展していくのかもしれませんが、まだまだ、課題も多いように思います。拠点病院と連携病院の温度差を少しずつでもなくせるようにしていけたらと思います。ありがとうございました。

(看護師)

・2 年位前に乳がんのパスの集まりがあり、その後どうなっているのか、とっていました。細かなことは良く分かりませんが、とにかく、少しずつやるしかないように思います。(医師)

・パスを術後にしぼったのは、現実的で良いと思われた。(医師)

・地域連携統括コーディネーターの役割は大変重要ですね。コーディネーターが介入して頂く事で、スムーズな連携が出来そうですね。活躍に期待します。(医師)

・術後補助化学療の際の TS-1, UFT, ユーゼルでお世話になります。連携パスの作成、導入や稼働等でお手伝いできる事がございましたら、今後ともお声掛け頂きます様お願い申し上げます。次回の講演も是非、聴講させて頂きたいと思います。何卒、ご検討頂きます様お願い申し上げます。(製薬会社)

・パスだけでなく、疾患についての話もあり非常に分かりやすかった。今後どのように開業医の先生方へ抗がん剤を PR していくかが重要 (パスを考えての PR が重要だと感じました)。そのためにも連携パスに必要な情報提供をしていく事が重要のように感じました。最後のパネルディスカッションは、現在のパスの運営にむけての問題点等、非常に行って良かったように思えた (もう少し長いとよいとも思った)。(製薬会社)

・パスの検査については、必要最小限にして欲しい。(医師)

・⑤肺がんのパスは6 カ月以内の検査が多すぎる。(医師)

・①～⑤の5 大がんのパスは、今後当院の作成として参考にしていきたいと思います。⑥当院の医療連携室に参考にさせてもらい、がん連携パスにも介入していけたらと思います。(事務職員)

・クリティカルパス (計画表) の実物を添付資料として1 部ずつ欲しかった。スライドがほとんど見えないうし、問題点も浮かばない。(医師)

・①長崎県方式の説明会、参加施設の例の説明会はされるのか?②疾患別に参加可能病院・診療所などの参加はエントリー制にされるのか?

・資料にパス部分しかなかったので、他の部分のスライド分もあれば良かった。(かん登録)

・特に新しい情報はない。補助化学療法をパスにのせる場合、多くの問題が予想されるが、その内容と対策をどう考えているのか? (医師)

・5 年間で終了では問題にならないか? 当院で問題となった例があります。(医師)

・各疾患別の連携パスの流れを説明いただきました。約5 年間を目安に癌再発の有無などみていく事は重要であると思います。(医師)

・大学病院パスの呈示があったのみで、県統一パス作成についての道筋を示せていなかったのが残念です。(医師)

・最後に肺がんのパスで、質問があったことから、疑問に感じていたことが理解できました。(看護師)

・コーディネーターの方がサポートすることによって、連携がスムーズになっていくことと思いますが、人員はどの程度、拠点病院へ増員されるのか? (医師)

・今まであったアンケート調査でいただいた資料と重複。担当者がよく変わる→「変わりました」という案内は、その都度、パス参加可と表明した医療機関の担当医へ連絡・案内いただけるのでしょうか。今までではなかったようです。大学以外の拠点病院の先生方が必ずしも皆、納得されたシステムでないという印

象を受けました（最後のディスカッションで）。（医師）

- ・連携病院（医院）をどうやって決めていくのか。発掘していくのか。CT・US 検査ができる病院は非常に少ない。（医師）

- ・地域連携統括コーディネーターがおられる事を知りました。問題点や相談など宜しくお願いします。術後、離島の診療所で通院する方もおられ、連携パスがある事で、今、どの段階でどのような検査や治療・通院が必要なのが、少しでも知る事ができありがとうございました。（看護師）

次回の講演で希望すること（内容、場所、日時ほか何でも結構です）

- ・がん連携パスが実際にどれくらい導入（利用・運用）されたのか、など。（薬剤師）
- ・癌の進行期、緩和医療に入った時の連携などについての試みなど。（医師）